

〔第22回〕

GSRC seminar

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

サルコペニアの発症病理に 関する研究

運動器疾患研究部

細山 徹 副部長

2024年1月16日(火) 15時00分～
第1研究棟2階大会議室

近年、加齢に伴う筋質（骨格筋の質）の低下とサルコペニアとの関連性が指摘されている。「加齢に伴う筋質低下」がどのような機構で導かれるかは現状不明だが、骨格筋内への脂肪浸潤（IMAT: Intra/Intermuscular Adipose Tissue）がその一つの要因であると言われている。しかし、IMAT形成機構の詳細は明らかではなく、その機構解明はサルコペニアの予防法や治療法を開発するうえで重要な課題である。

これまでに我々は、サルコペニアの発症病理（研究開発費21-5）や疾患バイオマーカーの同定（同21-44）に関する研究を通じて、サルコペニアにおけるビタミンDの重要性を示してきた（Mizuno, Hosoyama et al., JCSM. 2022）。さらに最近、これらの研究を端緒に、骨格筋に内在するIMATの起源細胞がビタミンD受容体を高発現していること、ビタミンDがIMAT起源細胞の脂肪分化を抑制すること、などを見出した（論文投稿中）。ビタミンD量は加齢に伴い減少することから、本研究成果はビタミンDがIMAT形成や筋質低下に深く関わる可能性を示しており、先に見出した筋線維に対する作用と共にビタミンDの多彩な機能とサルコペニアの発症や増悪化における重要性を強く示唆している。本発表では、ビタミンDを軸に研究開発費課題の研究成果の一部を紹介し、さらに、JH横断的研究推進費課題（2020-B-03）で実施した空間トランスクリプトーム解析の結果の一部についても紹介する。

座長：細山 徹 副部長

連絡先：GSRCセンター長室(内線5002)